

川もない平らな島である。一般的な事項も含め、台風第14号による教訓をまとめると以下のようになる。

① 停電対策

台風第14号では、電柱の倒壊が相次ぎ、長期間にわたって停電となった。停電になると、集合住宅では水が利用できない、食料にしても冷蔵庫が利用できない、携帯電話の充電ができないなど、沖縄の離島でも、改めて現代生活が電気によって支えられていることを思い知らされた。気象台をはじめ防災機関や医療機関では、安定した電源の確保が重要であることとバッテリーでは長期間の停電対策も必要であることを認識した。

② 暴風対策

台風第14号では、公共施設、病院、空港管制塔、民家など至る所で窓ガラスが割れ、破片で負傷するなどの被害が相次いだ。最近の住宅は雨戸のない家が多いが、台風第14号のような猛烈な台風では、木の枝や小

石の飛来があり雨戸や窓ガラスの強化の必要性が再認識された。

③ 観測機器の強化

台風第14号では、風向風速計が破損した。その他アメダス観測所、潮位検潮所、津波観測装置、地震観測局では停電、回線障害、雨水浸入による欠測が発生した。また、航空気象観測関係でも、風向風速計の破損、温湿度計の通風ファンの破損等が発生した。これらを教訓として、再発防止に努めていきたい。

台風第14号の概要と被害の様子等については、宮古島地方気象台のホームページ (<http://www.okinawa-jma.go.jp/miyako/>) に掲載しているので、興味のある方はぜひともご覧いただきたい。宮古島地方気象台では、台風第14号の貴重な教訓を風化させることのないよう、防災気象講演会等で語り継いでいくことにしている。



平成17年度宇宙科学研究助成（国際研究集会参加費）候補者の募集

（財）宇宙科学振興会（理事長 武井俊文）では、下記の参加希望者を募集します。関心のある方は募集要項・申請書の詳細を以下の財団ホームページでご覧頂くか、財団あてご請求・お申し込み下さい。

記

助成対象：宇宙理学（地上観測を除く）及び宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者（昭和45年4月2日以降生まれの者に限る）で、国際研究集会で論文発表が原則として確定している者。但し論文発表採択が未確定の場合でも申請できますが論文発表が条件となります。なお、大学・研究機関等所属長の承諾を得て応募して下さい。

援助金額：1 採択当たり約10～25万円

申込受付時期：随時受け付けますが、次の締切に間に合

うようお願いします。下記の時期に申請ができなかった場合でも、直後の締切りに限って申請ができます（例：8月に渡航した場合は9月15日までに申請が必要）。ただし、渡航後の申請の場合は前回申請できなかった理由の説明と、渡航の成果の報告に関する記述が申請書に必要になり

7月1日以降出発者については 5月15日
11月1日以降出発者については 9月15日
3月1日以降6月末迄の出発者については 1月15日

採択件数：年間 10～15件程度

照会先：（財）宇宙科学振興会事務局

Tel：042-751-1126

〒229-8510 相模原市由野台3-1-1

URL：<http://www.spss.or.jp/>

E-mail：zaidan@spss.or.jp